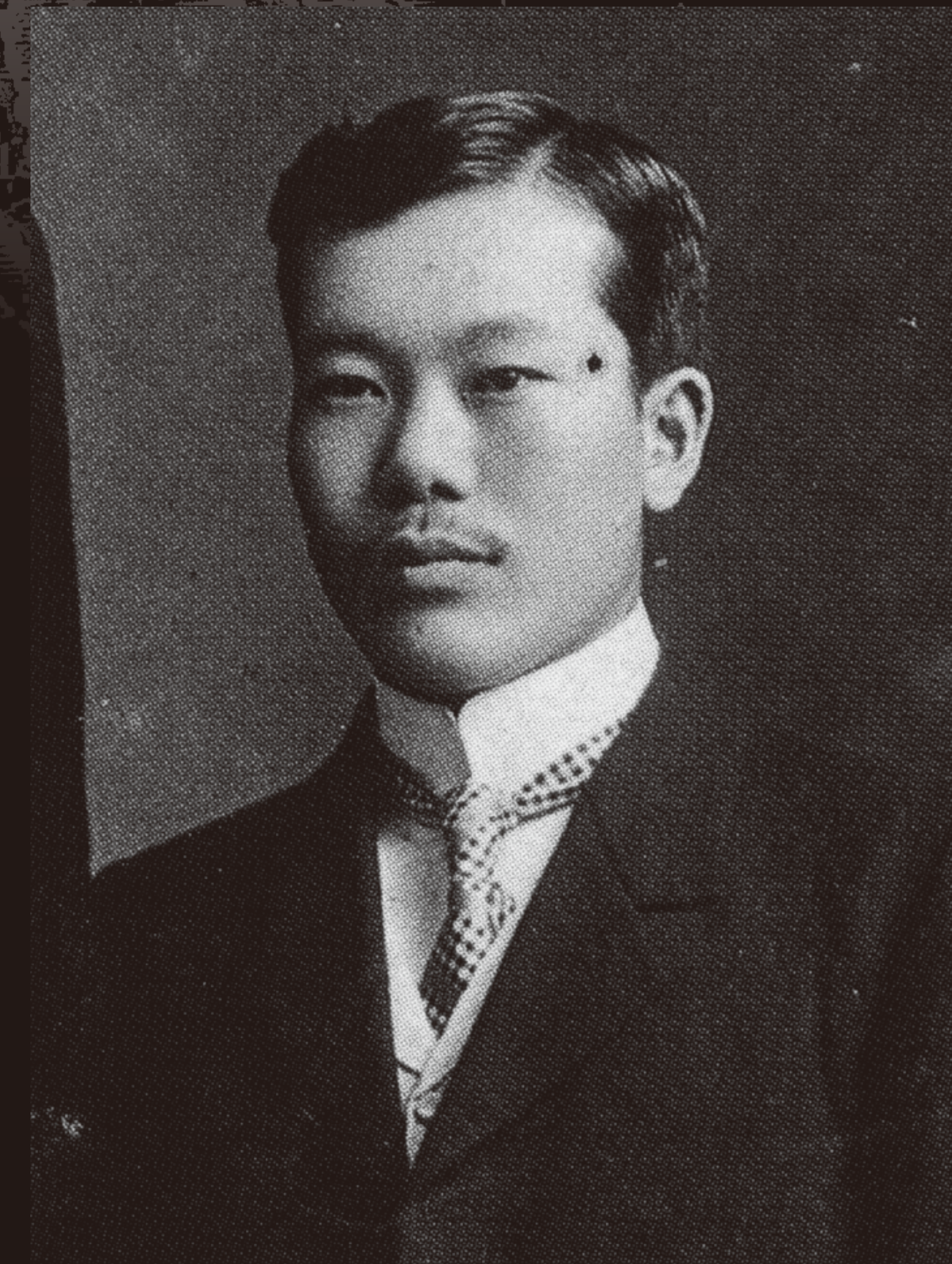




あさ ば さ き た ろう ファン・ボー・チャウ

浅羽佐喜太郎と潘佩珠

あさばさきたろう ファン・boy・チャウ

浅羽佐喜太郎と潘佩珠

ふたりの 出逢い

Encounter

浅羽佐喜太郎は、1867（慶応3）年に梅山八幡神社（袋井市）の神主の家に生まれ、帝国大学医学部（現東京大学医学部）卒業後、神奈川県小田原に浅羽医院を開業しました。

その後、当時フランスの統治下だったベトナムから日本へ来た潘と出会います。彼の話からベトナムの苦境を知った佐喜太郎は、病棟の一室を提供し、彼らの活動に対し経済的援助をはじめ、さまざまな支援を行ないました。



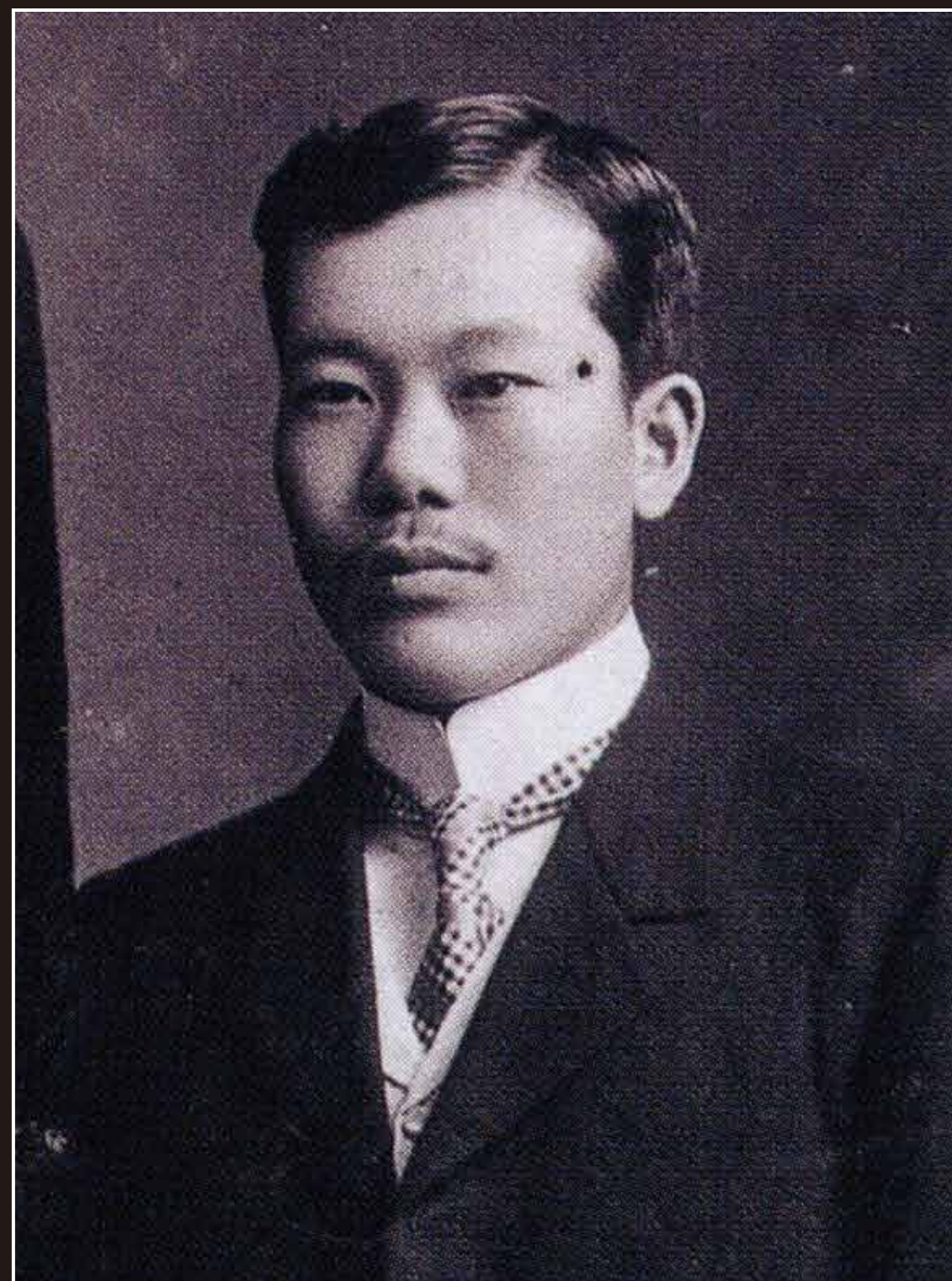
あさばさきたろう

浅羽佐喜太郎



略歴表

	主な出来事
1867年（慶応3）	東浅羽村（袋井市梅山）に生まれる。
1875年（明治8）	この年まで梅山の祖母のもとで過ごす。
1890年（明治23）	東京第一高等中学卒。
1894年（明治27）	帝国大学医学科大学卒。
1898年（明治31）	第1次大隈内閣。
1900年（明治33）	神奈川県前羽村町屋（小田原市）で「浅羽医院」を開業。
1901年（明治34）	大塚まさと結婚。
1902年（明治35）	長女ゆき江誕生。
1904年（明治37）	日露戦争開始。
1907年（明治40）	パリで「日仏協約」締結。 道ばたで倒れていたベトナム人学生の阮泰拔を助け、親身になって援助した。これが縁となって潘とも出会い二人の交流が始まる。 ベトナムの境遇を知った佐喜太郎はできるかぎりの援助をしようと決意する。
1909年（明治42）	二人の交流は潘に退去命令が下される3月まで続いた。
1910年（明治43）	郷里の東浅羽村が洪水に見舞われ心配するも、病弱であった佐喜太郎は43歳の若さで世界。
1912年（明治45）	その後遺志をを継いだ遺族、村へ義援金を贈る。



ファン・boy・チャウ

潘佩珠

	主な出来事
1867年（慶応3）	フランスの統治下であった北部ベトナムに生まれる。 当時のベトナムはフランスの厳しい圧制のもと民衆は苦しんでいた。
1904年（明治37）	正統な王位継承者である ^{クワンデ} 彊樞殿下を立て、維新会という組織を結成。 この年、日露戦争開始。
1905年（明治38）	潘、日本へ入国。 （上陸については、神戸・横浜・小田原など諸説がある） この頃ベトナムの現状を記した『越南亡国史』などを執筆。
1906年（明治39）	日本の野党の指導者、大隈氏、犬養氏と面談。
1907年（明治40）	パリで「日仏協約」締結。 日本での活動に苦しんでいた中、同士である阮泰拔に浅羽佐喜太郎を紹介してもらう。二人の交流が始まる。
1909年（明治42）	「日仏協定」より潘に国外退去命令。佐喜太郎と別れる。 新橋駅発下関行きに乗車、日本を離れ上海へ。
1918年（大正7）	東浅羽村を訪れ、村人の協力を得て常林寺（袋井市梅山）に『浅羽佐喜太郎公記念碑』を建立。
1925年（大正14）	上海で逮捕。終身禁固の身になり入獄。ベトナム各地で釈放を求めるデモが起こる。
1940年（昭和15）	軟禁生活で不自由な身のまま75歳で世界。 最後の言葉は「ベトナム」であったという。

袋井市近藤記念館

歴史が織りなす架け橋



【参考文献】『浅羽町史』通史編 2000 浅羽町史編さん委員会編 浅羽町 / 『ヴェトナム独立運動家 潘佩珠伝』-日本・中国を駆け抜けた革命家の生涯- 1999 内海三八郎編 千島英一・櫻井良樹編 芙蓉書房出版 / 『ベトナム独立への道』浅羽佐喜太郎記念碑に秘められた東遊運動の歴史 2008 安間幸甫編 浅羽ベトナム会 / 『報恩の碑』義侠の医師 浅羽佐喜太郎と潘佩珠 柴田静夫 2009 青柿堂 / 『日越ドンソーの華』ヴェトナム独立秘史-潘佩珠の東遊運動と浅羽佐喜太郎 2010 田中 孜

※現在確認されている浅羽佐喜太郎と潘佩珠に関する資料は限られており、資料の解釈において諸説あるため、今回のパネル作成に關し、上記文献を参考させていただきました。

袋井市近藤記念館

大切な友人へ

石に刻む感謝の思い

Gratitude

この石碑は、かつてフランスの統治下であったベトナムの、独立運動の指導者のひとり潘佩珠が、自分たちのために私財を投じて援助してくれた浅羽佐喜太郎に対し、追慕の思いとベトナム独立の悲願を込め、1918（大正七）年に東浅羽村の人々の温かい支援を得て建立されたものです。

（「袋井市指定文化財 浅羽佐喜太郎公紀年碑」説明板より抜粋）

袋井市指定文化財（1998年7月31日指定）

浅羽佐喜太郎公記念碑

ベトナム語訳版

Di sản Văn hóa được chỉ định tại thành phố Fukuroi : Bìa đá tưởng niệm Ngài Asaba Sakitaro

Đồi cảnh dựng bia đá
Asaba Sakitaro sinh tại làng Higashi-Asaba, nay thuộc thành phố Fukuroi. Ông đã xây dựng bệnh viện ở Odawara, và đã gặp gỡ Phan Bội Châu-người lãnh đạo phong trào giải phóng dân tộc của Việt Nam tại đây.

Sakitaro đã hỗ trợ tiền bạc và chu cấp nơi ở cho Phan Bội Châu cùng các đồng chí của ông. Tuy nhiên, trước sự đàn áp quá khắc nghiệt của thực dân Pháp, Phan Bội Châu đã bị trục xuất khỏi Nhật vào năm 1909. Sau đó một năm thì Sakitaro qua đời, hai người không còn cơ hội gặp lại nhau nữa.

Năm 1917, Phan Bội Châu đến thăm Nhật Bản và hay tin Sakitaro đã mất. Một năm sau, Phan Bội Châu đã đến thăm làng Higashi-Asaba, nơi có mộ phần của gia đình Sakitaro để dựng bia đá tưởng niệm, và đã hoàn thành công trình này với sự cộng tác của người dân trong vùng đáp ứng lại lời kêu gọi của trưởng làng.

Giải nghĩa ngắn gọn trên bia đá
Chúng tôi vì hoàn cảnh Việt Nam cơ cực mà đã đến Nhật Bản. Ngài Sakitaro đã đồng cảm với ý chí của chúng tôi và hỗ trợ chúng tôi một cách vô vị lợi. Ngài Sakitaro là một người xuất chúng, luôn coi trọng công lý và ra tay giúp đỡ những người yếu thế. Vậy mà giờ đây Ngài Sakitaro đã không còn nữa. Nói lòng chúng tôi bây giờ nào biết ngò cùng ai.

記念碑設置場所：常林寺



英語訳版

Fukuroi City Designated Cultural Property: The Monument of Sakitaro Asaba
Background of erecting the stone monument
Sakitaro Asaba was born in Higashi-Asaba village, the current Fukuroi City. He opened a hospital in Odawara as a medical practitioner and saw Phan Bội Châu, a leader of Vietnamese independence movement.
He supported their activities by providing rooms and financial help. However, the suppression by France was severe, and Phan left Japan in 1909. In the following year, Sakitaro passed away so the two could not see each other again.
In 1917, Phan visited Japan and learned of Sakitaro's death. In the following year, Phan visited Higashi-Asaba village, where Sakitaro's family grave was, to build a stone monument. He completed building a monument in cooperation with the villagers who gathered in response to the village mayor's call.
Brief explanation of the inscription on the monument.
We came to Japan to escape the turmoil of Vietnam. Mr. Sakitaro felt empathy for us and aided us gratuitously. He was an excellent person who was just and helped the weak. However, Mr. Sakitaro is not here anymore.
How and to whom we can appeal our feelings at this time?

「浅羽佐喜太郎公紀年碑」の説明文

袋井市梅山の常林寺にあるこの石碑前には、日本語の解説に加え、ベトナム語訳版（上）と英語訳版（右）が併記されています。

※掲載に際し、市民協働課より協力を得ました。

「浅羽佐喜太郎公記念碑」落成。前列右より2人目が潘佩珠。



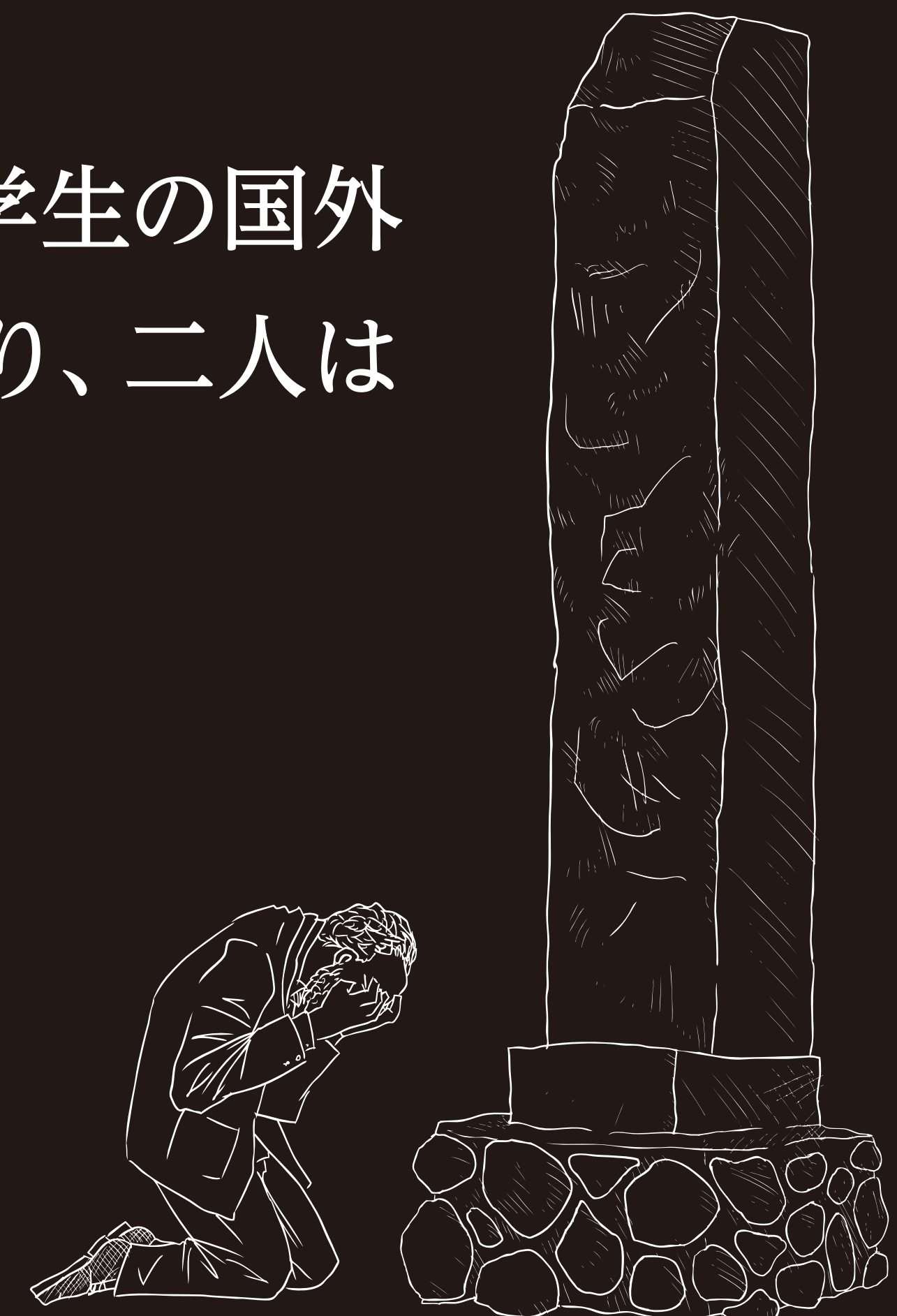
※上記写真は「図説 浅羽町史」 2001 浅羽町より引用

袋井市近藤記念館

1909（明治42）年フランスの圧力は厳しく、日本政府は潘たちベトナム人留学生の国外退去を命じ、潘も日本を去ります。その翌年佐喜太郎は43歳の若さで亡くなり、二人は二度と会うことはできませんでした。

1918（大正7）年、日本を訪れた潘は佐喜太郎の訃報を知ります。彼は、浅羽家の墓所のある常林寺（袋井市梅山）に石碑を建立しようと決意します。東浅羽村長の呼びかけに応じた村人の協力を得て石碑は完成しました。

【石碑の高さ：2.27m 幅：0.87m 材質：緑色片岩】



「浅羽佐喜太郎公記念碑」



袋井市近藤記念館

「浅羽佐喜太郎公記念碑」

…ここにその情を石に刻む

記念碑裏面

記念碑表面

大正七年（一九一八）三月

越南光復会同人

賛成員

岡本三治郎

岡本節太郎

浅羽義雄

碑文略解 立正大学 後藤均平訳（浅羽町史 通史編）

われらは国難（ベトナム独立運動）のため扶桑（日本）に亡命した。公（浅羽佐喜太郎）は我らの志を憐れんで無償で援助して下さい。思うに古今たぐいなき義侠のお方である。ああ今や公はいない。蒼茫たる天を仰ぎ海をみつめて、我らの気持ちをも、どのように、誰に、訴えたいのか。ここにその情を石に刻む。

豪空タリ古今、義中外ヲ蓋ウ。公ハ施スコト天ノ如ク、我ハ受クルコト海ノ如シ。我ガ志イマダ成ラズ、公ハ我ヲ待タズ。悠々タル哉公ノ心ハ、ソレ、億万年（まで残るだろう）。



先人の思い  を大切に…



ベトナムとの新たな交流



